

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200828		
法人名	医療法人 和同会		
事業所名	グループホーム宇部		
所在地	山口県宇部市大字西岐波229番地の3		
自己評価作成日	令和4年5月27日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和 4年 6月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院が併設しており、常勤看護師を中心に急変時の早急な対応や日常の定期受診など病院との連携が出来る。昼食作りや定期的なおやつ作りや、特別メニューを取り入れ、利用者と共に楽しい時間をつなげて、家庭的な雰囲気を作っている。
毎年、梅の実の収穫を行い、梅シロップを作っている。ベランダには季節に合わせた花を植えている。現在は、コロナ感染対策のために、中止となっているが、定期的にボランティアの方に来て頂き交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で、利用者や家族、職員共に様々な制限がある中、職員は利用者の快適な生活につながるよう、事業所内で出来るレクリエーションに力を入れておられます。新年会、書初め、節分、ひな祭り、手持ち花火大会、敬老の日、運動会、クリスマス会等の季節行事を工夫され、季節毎に花や野菜を植えられ、収穫を通して季節の変化が感じられるように企画されています。母の日や誕生日会では利用者の好みに合わせた食事メニューとされ、うどんの日を設けられたり、茶話会などで利用者の笑顔や楽しさを引き出す努力をしておられます。壁面飾りづくり、玄関などの清掃、モップかけ、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、昼食づくり、新聞紙のゴミ袋作りなど、活躍できる場をつくられ、張り合いや喜びのある、その人らしい日々が過ごせるように支援しておられます。事業所周辺の散歩や外気浴、日光浴、近くの花見(梅、桜、つつじ)、市内のドライブなどで利用者の気分転換を図られながら、併設された医療機関等と連携されて、利用者や家族が安心して過ごせるように支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい安心のある快適な生活を提供する」「地域との交流を深める」という理念を事業所内に掲示して、スタッフ間で共有すると共にケア会議や申し送り時に話し合い実践につながるよう努めている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を事業所内に掲示している他、事業所だよりに掲載している。年1回の全体会議や月1回のユニット会議、申し送り時に理念を確認している。年度当初に、年間目標(報告、連絡、相談を徹底し、一人ひとりに統一したケアを提供することが出来る)を定め、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が自治会に加入しており、代表が総会に出席して地域の情報を得ている。定期的に地域の方にボランティアに来て頂き交流を深めている。地域の文化祭に利用者の作品を出展しており地域とのつながりを続けている。	法人が自治会に加入し、代表が総会に出席して地域の情報を得ている。定期的に散髪ボランティアの来訪がある。地域の行事は中止となっているが、周辺の散歩時に法人内の施設利用者や職員と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での、問い合わせにてグループホームについての説明や、相談などを行い対応している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員にガイド集を配布して、各自にて自己評価を行い、管理者が意見をまとめている。外部評価の結果を受けて、ユニット会議等で、話し合い改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義をユニット会議で説明し、各職員はガイド集を参考にして自己評価を行い、管理者がまとめている。外部評価の結果を受けて目標達成計画を立て、応急手当や初期対応の訓練の継続については内部研修で「急変時の対応」、法人研修で「医療安全」を学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を実施している。利用者の状況・ボランティアの交流・季節の行事・おやつ作りなど、日々の様子を報告している。法人内外から毎回講師を招き勉強会を行っている。年1回家族交流会の前に会議を行い、たくさんの家族に参加して頂けるようにしている。現在は、コロナ感染対策のため書面開催している。	会議は年6回、書面で開催している。年度当初に職員の今年度の目標「報告・連絡・相談を徹底し、一人ひとりに統一したケアを提供することが出来る」を伝え、利用者の状況や行事予定、活動報告等事業所の情報を提供している。メンバーからの意見を得ることはできず、地域メンバー拡大のための働きかけはできていない。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当に運営推進会議に参加して頂き意見交換や情報提供をしてもらっている。現在は、コロナ感染対策のため、会議を書面開催しており、出来ていない。	市担当者とは、運営推進会議の他、電話等で、感染症対策等について話し合うなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、利用状況の確認や在宅でグループホーム利用希望の有無等について情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止に関する指針」を内容を理解して定期的に身体拘束についての研修を行っている。職員全員が意識して拘束しないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止に関する指針」があり、内部研修で学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。年4回、管理者と計画作成担当者、事務職員が参加して「身体拘束等適正化検討委員会」を開催し、「身体拘束廃止に関する指針」を確認した後、事例の有無を確認している。スピーチロックについて、日常業務の中で話し合い、気になる場所があれば管理者が指導したり、職員間で話し合っ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしないで、外出したい利用者があれば、職員と一緒に出かけるなど、気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行っている。職員全員で、意識を高め防止に努めている。言葉づかいや接し方など、少しでも気になることがあればその都度話し合いをしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に数名の方が利用されていたが現在は利用されている方はいない。必要となった時に、すぐに活用できるように制度について学ぶ機会を設けている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始の前に、家族との時間を作り十分な説明を行っている。家族の質問や不安な事を聞いて理解・納得を図っている。改定等があれば、その都度、書面にてお知らせをして家族に説明・了解を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望、不安なことがあれば、職員間で情報を共有して対応出来るようにしている。玄関に意見箱を設置して活用できるようにしている。苦情の相談窓口、受付体制、第3者委員を明示して処理・手続きを定めており契約時に家族に説明をしている。	契約時に、重要事項説明書で、相談や苦情の受付体制、処理手続きについて、本人や家族に説明している。家族からは運営推進会議時や面会時に意見や要望を聞いている。3ヶ月に1回発行する事業所だよりで利用者の日常の様子、行事に参加している様子に担当者がコメントを添えて送り、家族からの意見が出しやすいように配慮している。家族からは面会に関する意見が出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ユニット会議を開き、意見や提案を聞く機会を設けている。他にも何か意見や問題点があれば、その都度、話しを聞きユニットリーダーを中心に話し合いをしている。 各ユニットごとに意見ボードを設置して意見や提案を出せるようにしている。	管理者は年1回の全体会議や月1回のユニット会議、業務担当(行事、物品、食材発注)、日常業務の中で職員の意見や提案を聞いている。各ユニットボードに、利用者のことや伝達事項、職員の意見や提案等のメモを貼り、情報を共有したり、各ユニット会議で話し合いをしている。利用者が快適な生活が出来るように行事内容を工夫したり、職員の病休などに業務を整理して対応するなど、職員の意見、提案を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握して働きやすい環境作りや整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の年間計画を立て、担当職員が講師となり、研修を行っている。 併設病院の研修があり、全員が受けられる形になっている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じた勤務の一環として受講の機会を提供しているが、この1年受講者はいない。法人研修は、新型コロナウイルス感染研修や医療安全研修をパソコン動画の視聴で行い、視聴後は確認テストを行っている。内部研修は、年間計画を立て、月1回、施設見学の対応、急変時の対応、血圧測定、車椅子・トイレ使用乗降時のポイント、感染症、認知症の生活機能障害、高齢者虐待、レクアクテビティ、頻尿への対応等について実施している。新人研修は、管理者が職場規定について説明後、日々の業務の中で先輩職員から学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染対策のため、現在は出来ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安に思っていることなど把握して訴えが軽減して安心して日常生活が送れるように努めている。 職員間で情報を共有し対応を統一するようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入所時などに家族の不安なことや要望など、情報収集を行い職員間で情報を共有し、家族の不安解消に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が困っていることや、不安なことなど情報収集を行い、必要なサービスを見極め支援出来るように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしのなかで、掃除・洗濯干し洗濯たたみ・料理・盛り付け・茶碗洗いなど一緒に行い、利用者・職員共に支え合える関係が築けるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との電話・手紙のやりとりなど支援している。ユニット便りや電話で、本人の様子や活動などを伝えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚・友人などの、電話、手紙ハガキのやりとりなど支援している。	家族との窓越しの面会、家族や親戚、友人などとの、電話や手紙、はがきでの交流を支援している。3ヶ月に1回、事業所だよりを発行して、利用者の日常の様子や行事に関わっている様子を伝えたり、家族に受診の協力を得たり、職員が利用者数人ずつでドライブに連れていくなど、利用者が安心して暮らせるように家族との連携に努めると共に、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士、馴染みの関係が出来るように、テーブルでの席の配置を考えている一緒に洗濯ほしなど行うことで、お手伝いを通しての馴染みの関係が出来るように支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	骨折などで、退院した後もリハビリの後に再入所出来るように、病院や施設のMSWと連携を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を生活記録に記録して申し送りにて、職員間で共有して担当職員を中心に意向に添えるように努めている。日々暮らしや会話・行動などから利用者の立場になり、職員間で話し合い、思いを汲み取るように努めている。	入居前の利用施設や入院先で面談したり、事前の来訪時に本人と面談して情報を得ている。入居時にセンター方式を取り入れた事業所独自のアセスメントシートをもとに、本人や家族から今後の意向や希望を聞き、思いの把握に努めている。日々の関わりの中での言動や表情を生活記録に記録し、申し送りなどでも職員間で共有している。把握が困難な場合は、家族から情報を得たり、職員間で話し合っ、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面接時に家族からの情報収集を行っている。利用者との会話を通して情報収集を行いスタッフ間で共有出来るようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の出来事や訴え体調などを申し送り表や生活記録に記入して、職員全員で統一したケアが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望や本人の思いなどを聞き、担当職員や計画作成担当者を中心に話し合い介護計画を作成している。 1か月ごとにモニタリングを行い、6か月ごとに見直しを行っている。	計画作成担当者と利用者を担当する職員が中心となって、月1回のカンファレンスで話し合い、本人の思いや家族の意向を基に、主治医や看護師の意見を参考に、介護計画を作成している。月1回、モニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状況に変化が生じた場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の思いや訴えなど言葉を、生活記録に記入している。何か変化があれば、申し送り表に記入して、職員間で情報を共有できるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪ボランティア、訪問歯科などその時々に合わせて対応に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の大正琴ボランティアの他にも、定期的にボランティアに来て頂き楽しんで参加できるように支援している。 現在は、コロナ感染対策のために中止にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>併設病院をかかりつけ医にて定期受診している。耳鼻科・眼科・循環器・泌尿器など専門外来があり、必要に応じて受診している。さらに詳しい検査が必要な場合は他の病院を紹介して受診している。</p>	<p>本人や家族の納得を得て、全利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関からの月1回の定期健診があり、耳鼻科、眼科、循環器科、泌尿器科の受診を支援している。歯科は必要に応じて往診がある。他科は家族の協力を得て受診支援をしている。受診結果は申し送り簿に記録して職員間で共有し、家族には電話や面会時に伝えている。看護師が健康管理を行い、協力医療機関やMSWと連携し、緊急時や夜間も、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤看護師を中心に、利用者個々の状態や健康管理を行っている。何か変化があればすぐに看護師に状態を伝え対応し、早期に受診出来るようにしている。</p>	/	/
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院のMSWを中心に連絡を取り、入院や退院などの情報交換を行っている。</p>	/	/
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りに関する指針があり、事業所で出来ることを家族に説明している。家族や本人の要望を聞き安楽で安心できるように家族や担当医・職員と話し合い方針を決めて支援に取り組んでいる。</p>	<p>「看取りに関する指針」があり、契約時に事業所で出来る事を本人や家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を聞き、家族や主治医、看護師、職員が話し合い、移設を含めて方針を決め、支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事例が発生した場合、事故・ヒヤリハット報告書を記入してリスクマネージャーの助言を受けて再発防止に努めている。 必要に応じて併設病院のジェネラルリスクマネージャーの助言を受けている。 研修に急変時の応急手当や初期対応など取り入れ全職員が、実践力を身につけるように努めている。	事例が生じた場合は、事故・ヒヤリハット報告書に発生状況や原因、対応、家族への説明、改善策などを記入して、管理者やリスクマネージャー、法人のリスクマネージャーの助言を得て、ケア会議で再検討して、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で急変時の対応や感染症、血圧測定などについて学び、法人の医療安全研修を受講して、応急手当や初期対応の実践力を身につけるよう努めているが、十分とは言えない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜の火災などを想定した法人の防災訓練に職員が参加している。 事業所内でも、年2回防災訓練を実施しており、初期消火・声かけ・避難経路の確認など身につくよう取り組んでいる。 その都度、問題点があれば、話し合う機会を設け、次の訓練に活かしている。	年2回、法人施設合同の昼夜の火災を想定した防災訓練に職員が参加している。年2回、内部研修で火災を想定した初期消火、避難訓練、避難経路の確認を利用者も参加して行っている。職員を中心にマニュアルの見直しを行い、的確な行動がとれるよう改善に努めている。法人として地域の自治会や消防署との災害時の協力体制について話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にある「その人らしさ」を大切に 利用者一人ひとりを尊重して言葉かけやプライバシーを損ねないように、配慮した対応を心掛けている。	職員は入職時に理念や接遇、高齢者介護について学び、利用者との関わりの中やスタッフ間のやり取りの中、全体・ユニット・ケア会議等で話し合い、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、管理者が個別に指導している。個人情報保護について遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、利用者の思いや訴えを傾聴して自己決定が出来るように支援している。 うまく表現が出来ない利用者には、職員が思いを汲み取り、自己決定が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや、その日の気分に合わせて居室での食事や、昼寝など過ごし方など希望に沿った支援が出来るように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装、化粧水・乳液などのスキンケアなど、本人の希望に添えるように支援している。季節に合わせた服装が出来るようにさりげなく対応して支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が、献立を考えて朝・夕は併設病院が作ったものを、一緒に盛り付けを行っている。昼は事業所内で利用者と共に盛り付け・片付けを行いながら、会話を楽しんでいる。 行事に合わせた特別メニューや食べたいものを利用者に聞き、メニューに取り入れて楽しみにつながるようにしている。	法人の管理栄養士が献立を立て、朝食と夕食は法人の配食を利用している。昼食は利用者の好みを聞き、事業所で材料を発注して調理している。利用者の好みや状態に合わせて、食べやすい形状で提供し、職員も同じものを食べている。利用者は米研ぎや野菜の下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きなど出来る事を職員と一緒にこなしている。梅の季節には利用者は職員と一緒に梅もぎをして、梅酒や梅シロップを作ったり、インゲンの収穫をしててんぷらにして楽しんでいる。誕生日会や母の日などは利用者の好みに合わせたメニューにして喜ばれている。おやつづくり(桜餅、ぜんざい、パンケーキ、ホットサンド、じゃがいもチーズ、ベビーカステラ、さつまいものモンブラン)、季節の行事食(おせち、露の臺、節句や節分の寿司、たけのこご飯など)、祝日の赤飯やちらし寿司、うどんの日を設けるなど、利用者の食べる楽しみを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や残歯の状態に応じて、刻みやお粥・水分にとろみをつけて提供している。食事量や水分量のチェック表に記入して必要量が取れているか確認している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの見守り・介助を行っている。必要に応じて舌ブラシを用意して1人ひとりにあった対応をしている。訪問歯科を利用して、定期的に歯石の除去・義歯の調整・口腔内の観察を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの排泄状況に応じて排泄チェックを行い、トイレの声かけや誘導を行っている。昼・夜でパットなど使いわけをしたり、尿汚染が少ない利用者にはナプキンを使用している	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、人格やプライバシーを尊重した言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前・午後にラジオ体操・リズム体操・下肢運動を取り入れ、運動をする機会を作っている。おやつにヨーグルトを取り入れ腸内環境を整えている。申し送り表やチェック表に排便日を記入して、排便の確認が取れていない時は、薬の追加や坐薬を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週4回、午前・午後に入浴を行っている。 午前の声かけで、入浴を嫌がる利用者には再度、午後に声かけをすると入浴することがあるので、個々のペースや希望に合わせて入浴できるように支援している。	入浴は毎日、10時から11時30分と13時30分から14時30分までの間可能で、週4回入浴出来るように支援している。利用者の希望に合わせて、入浴順や湯加減に配慮し、化粧落としや好みの洗顔料、入浴剤の利用(季節には柚子の入浴剤を使用)、化粧水の使用、気の合う利用者と一緒に入るなど入浴を楽しめるよう支援している。入浴したくない人には、無理強いせず、職員を交代したり、入浴時間や入浴順の変更、声かけの工夫等で、入浴出来るように支援している。利用者の状態に応じて、清拭や足浴、シャワー浴など、個々に応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの状況を把握して、希望や体調に合わせて昼寝など、休息できるように支援している。夜、寝る前はそれぞれのペースに合わせて声かけをしている。 寝具や室温にも配慮して気持ちよく寝れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理のファイルを作っており、薬の作用副作用が、わかるようにしている。 薬の変更や追加、量の増減などがあれば申し送りをして体調の変化に気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片付け・洗濯ほし・洗濯たたみ・塗り絵・パズルなど出来ることを行えるように支援している。 個々に合わせて、縫い物・ゴミ袋折り・ちぎり絵・書写・花の水やりなど行い、出来ることを活かして、楽しみに繋がるように支援している。	季節の行事(新年会、書初め、節分、ひな祭り、花見、梅もぎ、手持ち花火大会、茶話会、敬老の日、運動会、クリスマス会など)や誕生日会、季節の壁面飾りづくり、苗植えや水やり、草取り、収穫(いんげん、ミニトマト、玉ねぎ、さつまいも、ネギなど)、新聞紙のゴミ袋作り、玄関や通路の清掃、掃除機をかける、モップかけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、カーテンの開閉、職員とシーツ交換、昼食づくり、食事の準備や片付け、おやつづくり、梅シロップや梅酒づくり、テレビの視聴、新聞を読む、歌を歌う、ラジオ体操、下肢体操、リハビリ体操、ぬり絵、習字、編み物、手芸、しりとり、カルタ、トランプ、坊主めくり、福笑い、双六、パズル、輪投げ、市内のドライブなど、季節の変化が感じられ、活躍できる場面をつくり、張り合いや笑顔、喜びのあるその人らしい日々が過ごせるように職員は常に話し合い工夫して支援に取り組んでいる。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日に、散歩や日光浴をしている。 コロナ感染対策のため、外出する機会が減っている。	事業所周辺の散歩や外気浴、日光浴、花や野菜の苗植え、水やり、草取り、収穫、梅もぎ、近くの花見(梅、桜、つつじ)、市内のドライブ(数人づつ)など、戸外に出かけ気分転換出来るよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、お金を所持することはないが本人の安心のために、家族同意のもとで小銭程度を所持している利用者もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族との、ハガキや手紙のやりとりをしている利用者もいる。本人が、電話をしたいと希望があれば支援している。家族から贈りものが届いた時は家族に、お礼の電話をしたりハガキを書いたりして、交流ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下・居室から、桜や梅・つつじあじさいなどが見えて、ベランダや玄関先にも季節の花や野菜を植えて季節を感じてもらえるようにしている。 季節に合わせた壁面制作や塗り絵や習字作品を、廊下に貼って季節を感じることが出来るようにしている。 空調管理にも気を付け、快適な暮らしが出来るように支援している。	事業所は2階にあり、各ユニットは中庭を挟んで居室を配置している。玄関先やベランダのプランターには季節の花や野菜を植え、四季を感じる事が出来る。各ユニットの食堂兼リビングは、自然光で明るく、壁面には利用者と職員が一緒に作った季節の作品や行事の写真飾っている。畳のコーナーには掘りごたつがあり、テレビを囲んで利用者同士が寛げる場となっている。室内にはテーブルや椅子を配置し利用者が思い思いの場で過ごせるように工夫している。台所は対面式でご飯を炊く匂いや盛り付けの様子が見えて、生活を感じる事が出来る。居室やトイレの場所がわかりやすいように、大きな字や矢印で案内表示をしている。温度や室温、換気に配慮して、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、共用のスペースでも自由に過ごせるように、環境作りに取り組んでいる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたタンスや、机・小物・家族の写真や思い出物や好きなものを飾りその人らしく過ごせるように、環境作りに取り組んでいる。 希望があれば、テレビを持参してもらい好きな時にテレビが視聴できるようにしている	居室の入り口に大きく書いた名札を貼り、利用者が作成した花を飾って自分の部屋をわかりやすくしている。利用者は、衣装ケース、椅子、時計、ラジオ、小物入れ、本、ぬいぐるみなど、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、家族や自分の写真、カレンダー、自分の作品などを飾って、本人が安心して居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど、目印をつけてわかりやすくしている。食堂のテーブルの配置や老人車の位置・ベットの位置など安全に過ごせるように工夫している。		